

現代的な「女性」ステレオタイプ

関東学院大学 高橋幸

1 目的

本報告の目的は、社会心理学のステレオタイプ研究の知見が社会学のジェンダー理論に対して有する示唆を明らかにすることである。ジェンダー・ステレオタイプはこれまでジェンダー理論において性差別 (sexism) や性役割 (gender role) 意識の下位領域問題として扱われてきたと位置づけることができるだろう (井上ほか編 2009)。性役割が批判的に検討され、社会に向けた啓発活動が行われ続けているにもかかわらず、なぜいまだにジェンダー・ステレオタイプはなくならないのだろうか。この問いを考える上で、ステレオタイプ内容や機制を具体的に研究してきた社会心理学の知見を参照することが有意義である。

2 方法

まず、社会心理学のステレオタイプ研究に関する主要研究とレビューに基づき、現代的なジェンダー・ステレオタイプ (そのなかでもとくに「女性」ステレオタイプ) の特徴について整理する。次に、これらの知見がジェンダー理論にもたらす理論的意義を論じる。

3 結果

現代では多くの人が平等主義を社会的正義として受け入れているため、ステレオタイプ化する側は自他ともに気づきにくいかたちでステレオタイプを使用している。例えば、好意的な感情が伴っているために偏見であると気づきにくい「好意的性差別 (benevolent sexism)」や、潜在的偏見に基づく「回避的レイシズム (aversive racism)」がある。また、ステレオタイプ化される側は明示的に差別的な扱いを受けなくても、相手による自分への評価がステレオタイプに基づいているかもしれないという解釈可能性が存在することによって自己効力感 (self-efficacy) や自尊感情 (self-esteem) の低下といった心理的ダメージを受けている (「帰属の曖昧さ (attributional ambiguity)」 「ステレオタイプ脅威 (stereotype threat)」)。

以上より、ステレオタイプに基づく判断をしているという「意識」を持っている人はいないのに、異なる社会的アイデンティティを持つ者との相互作用において違和感や不安、恐怖感を経験している人がいるというのが、現代的ステレオタイプの特徴である。

4 結論

社会心理学的ステレオタイプ研究は、ステレオタイプの判断を意識せずにしている人の心理的機制を解明している点で有意義である。だが、それだけではない。社会心理学的ステレオタイプ研究がもたらす理論的に重要な示唆とは、ステレオタイプで判断されるかもしれないという相互作用上の曖昧さ (ambiguity) がなくならないために「女性」ステレオタイプが維持されているということである。ステレオタイプは誰かの悪意や意図によって維持されているというよりも (そういう場合もないではないが)、現実の相互作用の曖昧さ——すなわち、相手のふるまいに対する解釈が複数あり、どれが「本当」なのかを、情報が不十分な中でともかくも判断しなければならず、そのとき「ステレオタイプ」にアクセスしやすくなること——によって維持されているのである。

文献

天野正子・伊藤公雄・伊藤るり・井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編, 2009, 『新編 日本のフェミニズム 性役割』岩波書店。